令和２年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人神戸大学

１ 全体評価

神戸大学は、「学理と実際の調和」を理念とし、社会科学分野・理科系諸分野双方に強みを持つ特色を発展させ、「先端研究・文理融合研究で輝く卓越研究大学」への進化を目指している。第３期中期目標期間においては、①先端研究の臨場感のなかで創造性と学識を深め、地球的課題を解決するために先導的役割を担う人材を輩出すること、②文・理の枠にとらわれない先端研究を推進し、他機関とも連携して、新たな学術領域を開拓・展開すること、③海外大学と重層的な交流を図り、世界から優秀な人材が集まり、飛び出していくハブ・キャンパスとしての機能を高めること、④これらの教育研究を社会と協働して推進し、社会還元することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、開発に協力した国産初の手術支援ロボットを導入し、今後の手術ログ収集等研究環境を整えているほか、産官学が協力連携し、次世代通信ネットワークを用いた遠隔ロボット手術の実現に向けた実証実験組織を立ち上げているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和２年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　教育体験サマープログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見送ったが､代替となるオンラインでのプログラムを令和３年２月～３月に実施している。２か月間の長期間にわたり、オンデマンドを中心とした形式で３講義を無料で開講し、中国、米国、英国、インド、エジプトなど世界24か国・地域にある86の大学から、601名の学部生・大学院生が参加し、内容に関するフィードバックがあった参加者のうち８割以上から肯定的な反応である。(ユニット「グローバル人材育成に向けた国際通用力の強化」に関する取組)

○　科学技術イノベーション研究科発のゲノム編集ベンチャー・株式会社バイオパレット（BP社）と、DNA合成ベンチャー・株式会社シンプロジェン（SP社）が、令和２年10月にオープンしたクリエイティブラボ神戸（CLIK）にラボを移転・拡張するなど事業を拡大し、近畿経済産業局が推進するスタートアップ企業育成支援プログラム「J-Startup KANSAI」対象企業としてそれぞれ選出されている。大学とBP社及びSP社が個別に締結している実施許諾契約に基づき、２社が大学に支払った実施許諾料と特許出願・維持費用負担額の合計は、令和２年度において約１億2,000万円となっているほか、大学と２社が個別に締結している共同研究契約に基づき、大学が受け取った研究費用の合計は、同時期において約1,800万円となっている。（ユニット「イノベーション創出に向けた研究の拡充」に関する取組）

２ 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載15事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載６事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 「株式会社神戸大学イノベーション」の設立

令和２年度に、承認TLOの認可を受けるとともに、大学100％出資による産学連携事業会社「株式会社神戸大学イノベーション（KUI社）」を設立している。本会社は、産官学連携機能を大学から切り離し、企業の柔軟な人事・会計制度を生かした人材を雇用し、プレマーケティングなど新たな手法の導入や学内研究室と企業への積極的な営業活動を展開することで、共同研究や知的財産活用等の企業等との連携をより活発化させる活動を行っている。これまでに、新型コロナウイルスなど感染対策のためのアクティブマスクや手術支援ロボット用のチェアの共同開発等を行い、知財ライセンス収入は令和元年度の約7,000万円から約１億円へ増加している。

○ 産官学の連携による国産初の手術支援ロボットの開発及び実証実験組織の設置

開発当初から協力してきた国産初の手術支援ロボット「hinotori」を国際がん医療・研究センター手術室に導入し、今後の手術ログ収集等研究環境を整えている。また、産官学が連携協力し、次世代通信ネットワークを用いた遠隔ロボット手術の実現に向けた最先端のネットワーク環境や医療機器を設置した実証実験組織「プレシジョン・テレサージェリーセンター」を立ち上げ、世界初の取組となる商用５Gを介した無線による遠隔実証実験を開始している。

○ 国内初となるオンライン認知症予防・健康増進プログラムの推進

認知症の早期発見や予防策の研究である「認知症予防事業（コグニケア）」において、施設に通わなくてもオンラインで自宅からコグニケアに参加できる「eコグニケア」プログラムの開発に取り組み、令和２年９月に、大学初となるオンラインによる認知症予防・健康づくりプログラム「eコグニケア」の販売を開始し、70名の受講生を獲得している。本取組は高齢者を対象に、予防・介入・教育を行う複合的プログラムであり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出制限下においても、高齢者がロケーションフリーで参加でき、健康的な生活習慣作りを支援し続けることができる。

○ 新型コロナウイルス感染症対策についての研究実績

新型コロナウイルス感染症対策について、様々な研究実績を上げている。中でも、他大学と共同で実施する「富岳新型コロナ対策プロジェクト飛沫感染チーム」においては、スーパーコンピュータ「富岳」を使用して、「室内環境におけるウイルス飛沫対策の予測とその対策」についてシミュレーションを行い、飛沫がどのように飛散するか予測・可視化しており、本データを基にした動画が多くのメディアで取り上げられている。

附属病院関係

【医学部附属病院】

○ クラウドファンディングを活用した社会的期待に応える研究の実施

クラウドファンディングサービスを活用し、「トリプルネガティブ乳がん：再発を防ぐ治療薬、確立のための臨床試験を」の寄附を募り、目標額の2,000万円を大きく上回る3,000万円を超える寄附を集めるなど、クラウドファンディングを活用した社会的期待に応える研究に取り組んでいる。

（診療面）

○ 新型コロナウイルス感染症に対する対応

令和２年４月から新型コロナウイルス感染症陽性患者の受入を開始し、院内に設置した「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」において兵庫県内及び隣接する大阪府での感染状況を注視しつつ、対応病床を整備するとともに、コロナ禍においても、特定機能病院として担うべき診療機能の維持に努め、地域医療の「最後の砦」としての役割を果たしている。

（運営面）

○ 臨床研究中核病院への承認に向けた取組

令和２年度までに臨床研究推進センターに専任のプロジェクトマネジャー、生物統計家を新たに採用し、臨床研究推進・臨床研究管理体制の強化や医療安全管理体制の整備の結果、医療法に定める臨床研究中核病院の承認に必要な体制要件を満たし、社会保障審議会医療分科会において審議されるなど、臨床研究推進に向けて取り組んでいる。